

安全上のご注意

第1章

安全にお使いいただくために

商品を安全にご使用いただくために、必ず守っていただきたい事項です。

個々の商品の注意事項は、各商品の説明ページにも記載されていますので、併せてご確認ください。

エクステリア商品全般の注意事項

⚠ 警告



[禁止]

商品の上に乗ったり、制限をこえる重量物を置いたり商品に無理な力をかけたりしないでください。転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。
※各商品の制限荷重は、第3章 各商品のページをご参照ください。

⚠ 注意



[強制]

各商品のラベルに記載された積雪量をこえる前に雪をおろし、こえた場合は、商品に乗ったり、商品の下に入ったりしないでください。商品の倒壊など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。雨やみぞれにより、雪の比重が大きくなりますので、下表の「雪おろしの目安」よりも早く雪おろししてください。

【雪おろしの目安】

ラベル表示 (積雪量)	新雪	しまり雪 (雪の重みで硬くしまった雪)	ざらめ雪 (氷つぶのようにざらざらした雪)
	雪比重：0.3 1cm 当たり約 3.0kgf/m ²	雪比重：0.5 1cm 当たり約 5.0kgf/m ²	雪比重：0.7 1cm 当たり約 7.0kgf/m ²
20cm	20cm	12cm	8cm
50cm	50cm	30cm	21cm
100cm	100cm	60cm	42cm
150cm	150cm	90cm	64cm
200cm	200cm	120cm	85cm

商品にラベルがない、ラベルの文字が見えない場合は、お取り扱いの建築会社、工務店、販売店、または当社お客様相談室にお問い合わせください。



[強制]

雪庇や巻き垂れができた場合は、早めに取り除いてください。
商品の破損や雪の落下により、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

雪おろしの際、屋根にはしごをかけたり、乗ったり、物をのせないでください。
転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

雪おろしの際、屋根の下に入らないでください。
商品の倒壊など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

商品に積もった雪に水をかけないでください。
雪の比重が重くなり、商品の倒壊など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

高所での作業を行う場合は、十分に安全を確保してください。
安全の確保が難しい場合は無理をせず、専門の業者にご依頼ください。
転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

バルコニー・ハンドレール・階段の注意事項

⚠ 警告

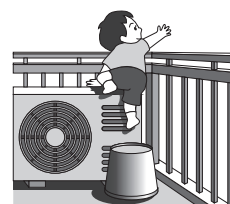


[禁止]

手すりなどの近くに植木台や椅子などを置かない

小さなお子様がいるご家庭では、手すりなどの近くに植木台や椅子、テーブル、エアコンの室外機や箱など、足掛かりになるものを置かないでください。

小さなお子様が、植木台や椅子などに上がることで、手すりなどから身を乗り出し、転落するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

手すりや格子などにロープやはしごをかけない

手すりや格子などに、ロープやはしごをかけて荷物の上げ下げをしないでください。

無理な力をかけると、商品の破損や、転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[強制]

手すりや格子などにガタつきがある場合は使用を中止する

手すりや格子などに、ゆるみやガタつき、腐食や破損などの異常を感じた場合は、ただちに使用を中止してください。商品の落下や転倒、転落により、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

ガラスやパネルを蹴らない

ガラスやパネルが組み込まれた商品に物をぶついたり、蹴ったりしないでください。商品の破損や、転落など、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

⚠ 注意



[強制]

床材の表面が濡れていると滑りやすくなります。
濡れている場合は、水分をふき取ってください。
滑って転倒するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

お願い

物干しは、必ず物干し竿を使用してください。
ロープなどを使用すると、無理な荷重がかかり、商品が破損するおそれがあります。

物干しの近くを通る時は、ぶつからないようご注意ください。
商品の破損につながるおそれがあります。

- バルコニーや階段（踊り場）の床下は、屋根やひさしの機能はありません。
雨水やしずくがたれることがあります。

床材についての注意事項

⚠ 警告



[禁止]

リウッド（再生木）の周辺で火気を使用しないでください。
リウッドに引火し、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意



[強制]

床材の表面は、直射日光などで熱くなる場合がありますので裸足で歩かないでください。
やけどするおそれがあります。



[強制]

床材の表面が濡れていると滑りやすくなります。
濡れている場合は、水分をふき取ってください。
滑って転倒するなど、思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。



[禁止]

床材にはすき間がありますので、つまずかないようご注意ください。



[禁止]

床材の上に、洗濯物や布団などを直接置かないでください。
床材表面のこすれ等によって発生した粉が洗濯物や布団などに付着し、汚れるおそれがあります。

お願い

保水タイルの上に重たいものを落とさないでください。保水タイルが割れるおそれがあります。
保水タイルが割れた場合は、お取り扱いの建築会社、工務店、販売店、または当社お客様相談室に修理依頼をしてください。

保水タイルは、保水性のある素材のため、環境によってはコケ、藻、カビなどが発生することがあります。お手入れの際は、ブラシ等で除去してください。

- デッキ材の上に、椅子やテーブル等を置く場合は、デッキ材のすき間から脚が落ちないようにご注意ください。
- デッキ材にはすき間があります。デッキの下は雨水や砂ぼこりが落ちますのでご注意ください。
- 保水タイルは、焼き物特有の風合いがあり、一つひとつ色が異なります。また、年月が経つにつれ風合いが増して味がでてきます。

サンシェードカーテンの注意事項

お願い

カーテンやレールに物を吊るしたり、ぶら下がったりしないでください。
カーテンやレールが破損し、落下するおそれがあります。

カーテンの開閉操作は手、またはオプションのフック棒を使って、必ず操作ひもで開閉してください。
操作ひも以外で操作すると、商品が破損するおそれがあります。

カーテン本体、レールに雪やほこりが付着している場合には無理に開閉せず、それらを取り除いてから開閉してください。

カーテンに火の気のあるものを近づけないでください。
カーテン生地が溶けたり、変形するおそれがあります。

・カーテン生地は透過性のあるメッシュを使用しています。雨除けとして使用はしないでください。

ご使用にあたって

商品を長く正常な状態でご使用いただくために、日常生活の中で気をつけていただきたい事項です。

●商品の点検について

長期間、商品をご使用になると、ネジのゆるみが発生することがあります。

お手入れの際、商品のネジ部品がはずれたり、ゆるんだりしていないことを点検してください。

(→ P.151「第6章 保守点検」)

知っていただきたい現象

第1章

安全にお使いいただくために

日常生活の中で『何かおかしいな…』と覚えることがある現象も、商品の不具合ではなく、商品の特性に関連して発生する場合があります。

ここでは発生する可能性のある現象について、商品の特性を踏まえて説明しています。

寒冷地と雪の種類について

雪おろしの目安の積雪量以下であっても商品が破損する場合があります。

雪の重さは積雪量 1cm 当たり約 3.0kgf/m²で計算しますが、雪の状態により大きく変化します。

湿雪や降雨後の雪は、新雪時に比べ約 3 倍の重さになります。

また、寒冷地では低温や凍結によって機能低下や、操作が困難な場合があります。

低温や凍結の場合の無理な操作は故障の原因となりますので操作は控えてください。

積雪については下記資料を参考に雪の種類に従って早めに雪おろししてください。

【参考】

	新雪	しまり雪 (雪の重みで硬くしまった雪)	ざらめ雪 (氷つぶのようにざらざらした雪)
雪比重	0.3 1cm 当たり約 3.0kgf/m ²	0.5 1cm 当たり約 5.0kgf/m ²	0.7 1cm 当たり約 7.0kgf/m ²

結露について

夜間や早朝など外気温が下がり、外気によって冷やされた商品の温度が露点以下になり、そのまわりの空気が冷たい商品に触れると、空気中の水蒸気が凝縮して結露が発生します。

特に、夜間と日中の気温差が大きい時や、湿度が高い場所、風通しが悪い場所や空気の動きがない場所などでは発生しやすくなります。

エクステリア商品に発生する結露は、周囲環境や立地条件などによる自然現象なので、防ぐことはできません。

ステンレスのさびについて

ステンレスは表面に独自の保護皮膜が形成されます。この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っていますが、表面が汚れると酸素との接触が妨げられ、さびが発生することがあります。

特に下記のような場合は、さびが発生しやすくなります。

- 塩素系の洗剤がステンレス部に付着した場合
- 海岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合
- 他の物のさびがステンレス表面に付着した場合（もらいさび）など

さびが発生した場合は、台所用クレンザー、市販のステンレス用清掃薬剤などでこすり落としてください。この場合表面にこすりキズがつくことはされません。「もらいさび」が落ちない場合は、さびが進行しステンレス自身にさびが生じたものと考えられます。

さびを予防するポイント

- 一旦発生したさびは落とすことが難しいため、日頃から中性洗剤（1～2%の水溶液）で、こまめにお手入れをする。

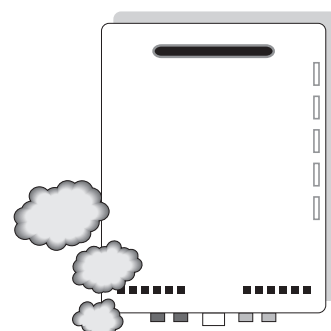
ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について

ガス給湯器などからの排気ガスが、アルミ部材の塗膜のはがれなどの表面異常の原因となることがあります。

ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があります、この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸、硫酸のような強い腐食性の酸を作ることがあります。

これらの酸が塗膜表面に付着すると、塗膜自体を劣化させ、塗膜の下のアクリルに達し、アクリルとの化学反応によって塗膜はがれなどの表面異常を引き起こすことがあります。

また、ガス給湯器や車の排気ガスが直接あたらないくても、周辺の通気が悪く、排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも塗膜のはがれなどが起こるおそれがあります。



腐食を予防するポイント

- ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミにあたらないようにする。
- 排気口近辺にアルミ製品を設置する場合は、こまめにお手入れし、周辺の通気を確認したうえで使用する。

風について

風の強さ、吹き方は住宅の立地条件（山の高い場所に建っているなど）により異なります。

風速は 10 分間の平均風速、瞬間風速は 3 秒間の平均風速を指します。

風の吹き方は絶えず変動し、瞬間的な強い風などで商品が飛ばされる場合があります。完全に防ぐことはできませんがより安心してお使いいただくため、ネジのゆるみや破損箇所がないかなど、こまめに保守点検してください。

【参考】

平均風速		人への影響
10 ～ 15m/ 秒	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる
20 ～ 30m/ 秒	非常に強い風	何かにつかまっていけないと立っていられない
30m/ 秒以上	猛烈な風	屋外での行動は極めて危険

【気象庁ホームページ「風の強さと吹き方」より抜粋】

リウッド（再生木）について

リウッド（再生木）は、見る角度によって色合いが違って見えることがあります。

表面にサンディング加工をしているため、商品の不具合ではありません。

また、天然の木粉は紫外線や雨により色が白く変色します。リウッド（再生木）に含まれる木粉も同様に白くなるため、色合いが全体的に白っぽくなります。ただし、使用環境によって色の変化の度合いは異なりますが、表層部のみの変化ですので強度にほとんど影響はなく、変化した表層部をサンディングすれば元の色合いに戻ります。

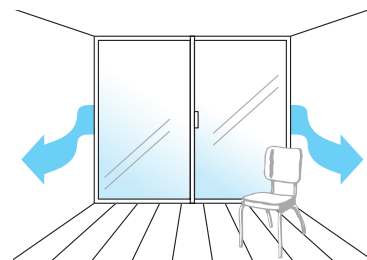
直射日光により「リウッド（再生木）」の表面温度は上昇しますが、これは色による影響が大きく、天然木やアルミでも同じように表面温度は上昇しますのでやけどをしないようご注意ください。

デッキ材は、材料に樹脂が入っている特性上、ご使用に差し支えない範囲で、熱による多少の反り、伸縮による変形が発生する場合があります。

窓やドアなどを閉めきった時のすき間風について

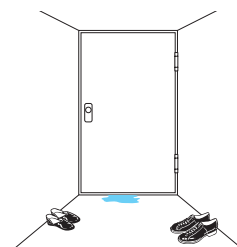
窓・ドアを閉めきった時のすき間をふさぐために、枠や窓・ドアにはパッキンなどの気密部品を取り付けています。強風や季節風などによって室内外に気圧差が生じると、この気密部品の接触部分からすき間風が発生します。

これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。ただし、すき間風があまりに激しい場合は、窓・ドア各部の調整が不十分であることが考えられますので、調整をお願いします。なお、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出するため、気密材と枠または窓・ドアの接触部分から空気が入ることがあります。



ドア・引戸などからの雨水浸入について

風雨時など、ドア・引戸から雨水が浸入することがありますが、商品の不良ではありません。玄関は屋根などにより通常の風雨は防げますが、濡れたり、汚れた靴で入ったりすることを想定して土間仕上げとなります。居室に使用される窓と同等の水密性能は、玄関には施されていません。また、ドア・引戸の施錠機構は、窓に採用されているような枠と窓を密着させて雨水浸入を防止する引き寄せ構造にはなっていないのが一般的です。

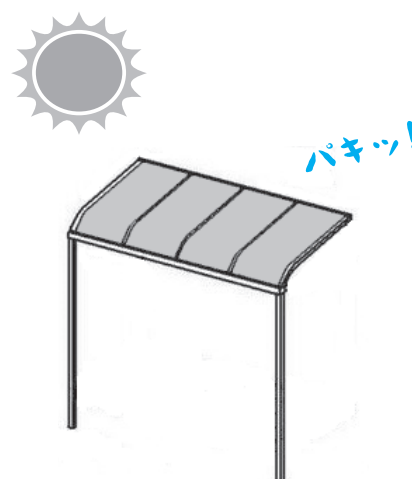


格子の音鳴り現象について

バルコニーなどの商品の中で格子デザインによっては、強風時や季節風の時期など、風が吹いた時にごくまれに格子が音鳴りすることがあります。原因として、格子の間を風が通り抜ける際に、格子が振動し格子同士が共鳴を起こすことにより、振動が増幅し音鳴りが発生すると考えられています。この現象が起こる条件は、気候、風の向きや強さ、設置場所などが複雑に絡み合い起こるため、風の向きや強さが同じでも、音鳴りは起こらないこともあります。風が弱まったり、風の方が変わったりすれば、音鳴りは自然に治まります。

屋根ふき材・笠木・ひさしなどの音鳴り現象について

エクステリア商品は、屋外に取り付けられています。屋根ふき材やハンドレールの笠木・ひさしは、特に太陽光を直接受けて、熱により膨れたりこすれたりして異音が発生することがまれにあります。これは、必ず起こる現象ではなく、気温、立地条件、季節、使用材料など複合的な要素により発生する不可抗力現象であり、商品の不具合によるものではありません。また、熱による膨れや異音は、日が陰れば自然に治ります。



強化ガラスについて

ひさしや、ハンドレールの商品には、強化ガラスを用いています。下記の特性や注意点をご理解のうえ、ご使用ください。

強化ガラスは耐衝撃性に優れており、万一割れた場合でも瞬時にガラス全面が粒状の破片となる安全性の高いガラスです。しかしながら、ごくまれに外力が加わっていない状態でも破損することがあります。もし、破損した場合は、なるべく近づくず、速やかにガラス交換のご依頼をお願いします。

【不意に破損する原因】

強化ガラスは、表面に圧縮層、内部に引張層を持ち、お互いにバランスを保って強度を保持しています。そのため、ガラス表面にできたキズが成長して、内部の引張層にまで達した場合には、外力が加わっていない状態でも不意に破損することがあります。

【キズの発生要因】

- ① 硬い物などの衝撃、溶接の火花、飛来物など外力によってできるキズ
- ② ごくまれに、ガラス中に残存する不純物に起因するキズ

●飛散防止フィルムについて

強化ガラスには、飛散防止フィルムを標準で貼付しています。使用中に飛散防止フィルムが、ガラス小口（端面）から 20mm 以上はがれてきた場合は貼り替え、またはガラスの交換をお勧めします。ただし、20mm 未満であればはがれた部分のフィルムを切断することで対応できます。無償修理期間を超えた場合の貼り替えは有償となります。

- 飛散防止フィルムは、万一ガラスが割れた場合、破片の落下を防ぐもので、ガラス自体の強度性能に寄与するものではありません。飛散防止フィルムは消耗品であり、立地条件や日照条件などにより数年でガラス小口（端面）より飛散防止フィルムがはがれてくる（浮いてくる）場合がありますが、ガラスの強度性能には問題ございません。（飛散防止フィルムのはがれに関する無償修理期間は 1 年間です。）
- フィルム表面に汚れを付着させたままにするとフィルムの劣化が早くなります。また、汚れによって反射率などの性能が低下します。フィルムの性能を維持するため、こまめに清掃を行ってください。

●強化ガラスの映りこみについて

強化ガラスに映りこむ像は、ゆがんで見えますが、これは強化ガラスの特性上のもので、商品の不良ではありません。

ガラスに浮き出る吸盤やラベルの跡について

ガラス表面が曇った時など、製造や施工の際に使用する吸盤の跡や、施工時に貼ってあるラベルの跡が浮き出てることがあります。

これは、ガラスの機能や性能に影響を及ぼすものではありませんが、通常のクリーニングでは除去できない場合があります。

中性洗剤で落とすことが難しい場合は、カー用品店やホームセンターで購入できる「自動車用油膜除去剤」（酸化セリウム配合）で除去できます。

ご使用にあたっては、「油膜除去剤」に添付されている取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。

床材のきしみ音について

デッキ材からきしみ音がする場合があります。
これは、デッキ材同士やデッキ材とアルミ材との摩擦などによって発生するため構造上さけられない現象です。

網戸からの虫の侵入について

網戸を使用していても、虫の大きさや種類によって完全に侵入を防ぐことはできません。

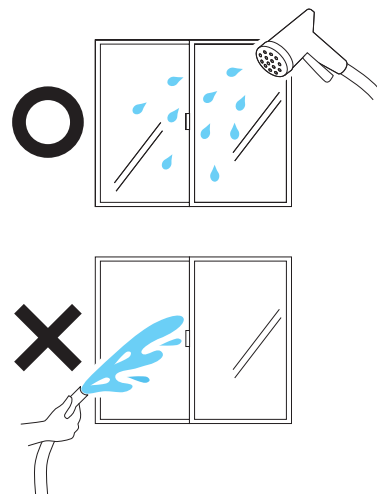
エクステリア商品の表面温度について

エクステリア商品は、屋外に取り付けられているため、長時間直射日光があたると、表面温度が非常に高くなる場合があります。特に、ブラック・ブラウンなど色の濃い商品ほど表面温度が上昇します。直射日光が強い時間帯はやけどをするおそれがありますので、素手や素足で触れないようご注意ください。

清掃時の散水による水侵入について

窓を閉めた状態で雨が室内側へ入らないよう、窓にはパッキンなどの気密部品が付いています。これは、強風を伴う降雨時を想定した所定の水密性能を確保するためのものですが、窓と枠すき間を完全に密閉するものではありません。清掃時に、ホースや高圧洗浄機などで強く水をかけたり、下から上方向に水をかけたりすると、室内側へ水が入る場合があります。これは、水の勢いが強かったり、上方向に水をかけたりしたことで、通常の降雨を想定した窓の水密性能を超える状況となったことによるもので、窓の不具合ではありません。

清掃時は、草花に水やりする程度の水流で、下方向にシャワー状の水がかかるように散水してください。



LED 照明について

LED は、光色、明るさにばらつきが生じることがあります。
これは LED の特性であり、商品の性能には問題ありません。